

2018年度自己点検自己評価(2018年4月1日～2019年3月31日)による

記入者氏名【 居 関 暁 昌 】

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
1 教育 理念・ 目的・ 育成 人材 像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3		<p>教育理念・目的・育成人材像は、明文化・文章化されており、会議や研修等においては、これらを用いながら研修を行うことで理念等の普及・徹底を実現している。</p> <p>また、社会の新たな人材ニーズを見出し、育成人材像として明確化して学科のイノベーションに取り組んでいる。</p> <p>学生には学生便覧を活用し、オリエンテーションや授業で養成目的や教育目標を確認しながらカリキュラムを履修させている。</p>	<p>【建学の理念】</p> <p>① 実学教育・・・特定の職種で、即戦力となる専門的な知識・技術(テクニカルスキル)を身につける。 ② 人間教育・・・いかなる職種でも必要なプロとしての身構え、気構え、心構えを持った職業人を養成する。 ③ 国際教育・・・在学中からコミュニケーション言語としての英語、および専門英語を身につけるばかりでなく、より広い視野でモノを捉える国際的な感性を養う。</p> <p>【4つの信頼】</p> <p>①学生保護者からの信頼②業界からの信頼③高等学校からの信頼④地域からの信頼を大切にしている。また、これら理念を文章化した「滋慶語録」という冊子に沿って研修等で理念の確認を行っている。</p>	3	理念、目的を定めて取り組まれていることは、評価できる。今後も業界のニーズをしっかりと捉えて、人材育成に尽力願いたい。
	1-1-2 育成人材像は業界等の人材ニーズ像に適合しているか。育成に関連業界の協力を得ているか。	3	<p>教育課程編成委員会や業界講師面談、業界訪問等により、業界が求める人材像を明確にするとともに、教育課程・授業計画等策定に活かしている。</p> <p>また、各学科における法定実習等について、各業界の皆様との協力を得ながら、全ての学生が滞りなく実施することが出来ている。</p>	<p>【教育課程編成委員会】</p> <p>平成30年度は5月19日、11月10日に、各学科ごとに実施した。</p> <p>【実習指導者会議】</p> <p>学生受け入れていただく実習先の職員に参加してもらい、実習の目的等を理解してもらう会議。学生も参加して実施している。(S T科)</p>			
	1-1-3.4 理念の達成、業界ニーズに適合する将来構想を抱いたうえでの教育活動に取り組んでいるか。	3	<p>事業計画は5か年で計画しており、その中では学校のイノベーションも記載している。18歳人口の減少、超高齢社会に向けて、医療と健康の総合専門学校としての学校の立ち居地を決め、職員研修等で目指す方向性の確認をしている。</p>	<p>【看護師科の設置計画】</p> <p>2022年度開講予定で看護師科を設置し、医療教育の中核を担えるような学校にしていく計画がある。</p> <p>【産学連携教育】</p> <p>現場実習や企業との共同研究など、産業界と連携した教育を行っている。そのことで環境変化にも耐えうる人材を育成している。</p>			
2 学校 運営	2-2-1 運営方針は定められ、教職員に周知・浸透されているか	3		<p>運営方針は事業計画として記載されており、学校運営会議、法人常務理事会、法人理事会、法人評議員会の決議を受け、承認を得ている。</p> <p>また、事業計画は毎年3月の初旬に研修を行い、運営方針、目標、役割など全教職員へ周知徹底している。</p>	<p>【平成30年度 運営方針】</p> <p>①「教育・広報の一体改革」に取り組み、入学定員充足100%を目指す。 ②「選択と集中」を徹底してやりきる。 ③看護師教育をスタートさせて、「医療・健康の総合学校」ブランドを作る。 ④組織のイノベーションを図り、情報を一元化する。 ⑤卒業生ネットワークをシステムとして構築し、見える化する。</p>	3	
	2-3-1 事業計画は理念等を達成できるように定められているか	3	<p>事業計画は学校での運営会議、本部での戦略会議を経て、法人理事会と法人評議会によって承認されており、計画そのものに理念との乖離がないかの確認が行われている。</p>	<p>【運営会議】</p> <p>毎週1回行われる学校での会議。役職者で学校の意思決定を行う。</p> <p>【戦略会議】</p> <p>本部で月に1回行われる会議。常務理事と本部長によって構成されている。</p>			
	2-4-1.2 理事会は適切に開催されているか。また、運営組織や意思決定機能は体系化され、効率的なものになっているか	3	<p>理事会は年4回実施されており、学則や寄付行為の変更等の承認を受けており、議事録は関係部署に公開されている。</p> <p>運営組織は、実行計画の最適化の観点から毎年見直されており、本部を含めた全体像は、事業計画書の組織図に示されている。</p>	<p>【平成30年度 運営組織】</p> <p>国家資格系学部と非国家資格系学部として組織を編成している。それぞれの学部には共通した課題があり、学科を越えて情報共有できる組織としている。</p>			

2018年度自己点検自己評価(2018年4月1日～2019年3月31日)による

記入者氏名【 居 関 暁 昌 】

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
2 学校運営	2-5-1 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3	職員採用にあたっては、学校だけではなく学園本部においても採用広報、採用試験、研修を実施している。  賃金については、目標管理制度を基本とし、これと対応して成果主義を取り入れた賃金制度を設けている。	【目標管理制度】 目標の達成度は本人評価⇒上長評価⇒学校責任者評価と3段階で実施される。また、数値で評価できない業務についてはプロセス評価も導入しており、上長の評価は本人と面談をしたうえで決定する。 その評価についての妥当性は運営会議にて全マネージャーで決定をし、評価に矛盾の無いようにしている。  ※本人による目標設定も毎年行い、評価と同様に全マネージャーで目標の妥当性を確認し承認していく。	3	
	2-6-1 意思決定システムは確立されており明確になっているか。	3	意思決定システムは事業計画に含まれており、それぞれの会議の位置づけ・目的についても明記されている。	【会議】 ①理事会②拡大大務会③戦略会議④運営会議⑤全体会議⑥部署別会議  ※上記以外に、TBM(ツールボックスミーティング)を重視している。  ※TBMは定例会議まで待てない懸案事項について即時、利害関係者を招集し協議決定にあたる場である。		
	2-7-1 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	個別のセクションの情報システム化、その結果としての業務の効率化は推進されていると考えている。それは、業務のマニュアル化とシステム化が推進されたことと、法人内のコンピュータ関連会社の協力で、情報の一元化に成果が現れてきたことによるものである。	【AS400(システム)】 ①学籍簿②時間割、成績・出欠管理③学費④入学希望者⑤各種証明書⑥求人・就職⑦卒業生⑧学校会計⑨人事・給与⑩研修旅行⑪学生寮⑫健康管理 等を一元管理している。  【iPADによる出席管理】 各授業の出欠席はiPADで入力し、同時に職員室でも出席状況が分かるようになっている。		
3 教育活動	3-9-1,2 教育の目標・目的に沿った教育課程を編成し外部の意見も反映しているか。	3	教育課程は、教育課程編成委員会や業界訪問などにおいて、環境変化と業界ニーズを踏まえて作成している。	※1-1-2と同様		
	3-9-3 キャリア教育を行なうために教育内容等の工夫をしているか。	3	キャリア教育ロードマップを作成して指導の方向性を示している。  また教職員はキャリア教育に関する指導・支援について、研修を受講している。	【学生サポートハンドブック】 ①教職員カウンセリング研修、②進路アドバイザー研修、③キャリア教育カウンセラー研修で構成されている学園独自の教育マニュアル。 教職員は、この冊子を元に研修を段階的に受講する。		
	3-9-4 授業評価を実施し、授業改善に活用しているか。	2	前期・後期の各1回、学生に授業アンケートを実施している。  この授業アンケートの結果とオープン授業(公開授業)を通して、各講師の専門性の把握及び評価を行い、フィードバックを行うことで改善を促している。  東京医薬の授業という形にはまだ課題がある。また授業アンケートの講師へのフィードバックも課題がある。	【授業改革プロジェクト】 授業改革を推進すると共に、講師アンケートの分析や公開授業の運営を主体とするプロジェクト。  【講師会議】 年2回実施している非常勤講師向けの会議(研修)で、評価の高い講師の授業の取り組みなど水平展開できるように実施している。		
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確にしているか。	3	単位履修、成績評価については、学生便覧に学則施行細則として明記し、全学生に説明を実施している。また教務会議、卒業進級判定会議などにおいて、成績評価、単位履修についての共通認識を確認している。	入学時、進級時に担任より、学生便覧の読み合わせを行い説明をしている。 また、最初の定期試験前には、担任より再度説明を行っている。 保護者へ向けては保護者会で説明を行っているが、成績表発送時にも成績評価・終了認定基準を文書化したものを同封している。	3	資格は、取得が目的ではなく、取得した資格が今後どう活かせるのかを目的にさせることが重要ではないだろうか？ そのあたりを、教職員の方にフォローしてもらいたい。 すべてに意味、意図を説明し、理解させてカリキュラムの重要性を理解させる工夫がより必要になっていると思われる。 学生が授業の意図を理解していないことが多々耳にする。

2018年度自己点検自己評価(2018年4月1日～2019年3月31日)による

記入者氏名【 居 関 暁 昌 】

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
3 教育活動	3-10-2 学生の受賞状況、研究業績等を把握しているか。	3	学生の授業や研究発表、実績については担任を通じて全体集約しており、研究内容によっては卒業時に表彰している。	【主な表彰】 理事長賞、学校長賞、東京都専修学校各種学校協会会長賞、医療秘書技能検定会会長賞、医事コンピュータ技能検定会会長賞、日本言語聴覚士協会会長賞、全国リハビリテーション学校協会優秀賞、近畿大学九州短期大学学業優秀賞、保健児童ソーシャルワーカー協会賞、ピアヘルパー協会会長賞、日本視能訓練士協会優秀賞、全国視能訓練士学校協会優秀賞、全国救急救命士教育施設協議会成績優秀者表彰、日本臨床工学士会会長賞、日本臨床工学士教育施設協議会代表理事賞、滋慶教育科学研究所審査員特別賞、滋慶教育科学研究所奨励賞、滋慶教育科学研究所努力賞	3	
	3-11-1,2 目標とする資格は教育課程上、計画に位置付け、取得の指導体制はあるか。	3	各学科、資格合格に向けての資格対策プログラムを構築しており、確実に資格取得合格率は向上している。 学園全体としても国家試験対策センターを設置し、国家試験対策研修会、勉強会を実施している。	【滋慶学園 国家試験対策センター】 大阪本部に設置。グループ校の全学科の国家試験結果の分析、傾向の把握、模擬試験運営等を担う。		
	3-12-1,2,3 資格・要件を備えた教員を確保し、教員の資質向上の取組みを行なっているか。	3	事務局長、教務部長を中心に、事業計画に合わせた教員採用計画を立案、実施している。 また、教授力向上のための研修を実施している。	【職員研修】 担任研修／カウンセリング研修／新入職研修／新入職フォローアップ研修／トレーナー研修／OJT研修／国家試験研修／FD研修／マネジメント研修／滋慶教育科学学会など。  ※事業計画作成時に研修対象者を選定し、職員の資質向上も計画的に行っている。		
4 教育成果	4-13-1 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	2	就職率(就職決定者/就職希望者)は100%を長期にわたって達成していたが、今年度は年度内93%という結果となった。就職に向けての動機付けを早期に実施し、就職活動に対してのモチベーションを高める必要がある。  合わせて、専門就職率(第一専門職)、就職者率(就職者数/卒業生数)、卒業後1年以内での離職率を低くするという目標を掲げ、取り組んでいる。	【就職における毎月のチェック項目】 ①卒業年次在籍者数 ②就職希望者数 ③内定者数 ④専門職就職者数 ⑤月別内定シミュレーション ⑥求人数(職種別、有効求人数) ⑦学生就職活動状況表(学科別)  ※卒業後1年以内の離職者の確認を行うため、卒業生に対し就業状況調査アンケートを実施している。	3	しっかりと知識、技能を身につけた生徒を社会に送り出すことが、何より先々の業界との連携に繋がるのではないだろうか。  入職して1年以内の離職は、病院でも課題となっている。アンケートの共有ができれば、病院側も検討できると思う。
	4-14-1 資格取得率の向上が図られているか	3	事業計画において、単年度及び5年後までの取得率目標を設定している。 各学科ごとの国家試験対策は会議を通じて水平展開できるようになっており、全学科の100%合格を目指している。	【平成30年度 国家試験結果(合格率)】 言語聴覚士科: 64.9% 言語聴覚士科2年制: 92.0% 視能訓練士科: 100% 視能訓練士科1年制: 100% 臨床工学士科: 80.7% 救急救命士科: 84.6% 歯科衛生士科I部: 100% 歯科衛生士科II部: 100%		
	4-15-1 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	卒業生についてはキャリアセンターが中心となり、業界訪問時や就業状況調査アンケート等を通じ状況の把握をしている。  在校生は担任による指導、面談の中で学校内外での活動に関し、支援体制を取っている。	【卒業生・在校生の活躍】 ・日本医療秘書学会学術大会(医療秘書科在校生) ・日本ロービジョン学会(視能訓練士科在校生、卒業生) ・日本弱視斜視学会(卒業生) ・日本視能矯正学会(卒業生) ・専門誌執筆 眼科ケア(卒業生) ・視能訓練士協会教育プログラム技術指導(卒業生)		
5 学生支援	5-16-1 就職に関する体制は整備されているか	3	学科毎に異なる求人のピーク時期に合わせて就職行事を設定して、就職を希望する学生が就職できる体制を取っている。 また、学校独自の就職活動マニュアルを作成し、全学生に配布して活用できるよう支援している。	【就職活動マニュアル】 自己分析や履歴書の書き方、服装など学生にとって分かり易い冊子を作成している。	3	
	5-17-1 退学率低減の取組みを行なっているか。	3	前年度の退学者の傾向を分析し、対策を立てたうえで、年度当初に学科ごとの退学目標数字を決定している。 また、年度中間期と年度の終わりには、卒業進級判定会議資料として進級者名簿・数と退学者名簿・数、退学時期、退学問題分類・詳細、その結果を受けた学科総括と対策案を書類として作成している。	学生の退学理由は多様化・複合化しており、学校全体の支援体制が必須となる。これまで1年生の退学が多かったが、2年生や卒業学年、また社会人向け学科でも退学が増加している。 (退学率 平成30年度: 4.1% 平成29年度: 4.0% 平成28年度: 3.7% 平成27年度: 2.9%)		

2018年度自己点検自己評価(2018年4月1日～2019年3月31日)による

記入者氏名【 居 関 暁 昌 】

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
5 学生 支 援	5-18-1.2 留学生支援も含め、学生相談に関する体制を整備しているか。	2	留学生に関しては、法人に設置の国際センターと連携し、入国管理局への在留資格の取得や更新の手続きを学生サービスセンターが行い、資格外活動の管理や生活・言葉の不安に対する対応を在籍学科教員を中心に行っている。日本人学生も含めて、精神面・健康面・学費などの相談を受入れる体制を整備している。	留学生の入学者が増加しており、今後もその傾向は継続することから、各日本語学校を訪問して連携を高めている。また、留学生増加に伴い、就職支援体制を強化する必要がある。		就職することのメリット、目的、また目標がはっきりすると、学生の姿勢や積極性、離職率の原書うに繋がらないだろうか？
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3	法人の教育・研修を受けたフィナンシャルアドバイザーが常駐し、入学から卒業までの学費相談を行っている。	【奨学金受給者率】 第1種：6.3% (65名) 第2種：22.3% (232名) 第1種、第2種兼用：7.4% (77名) ※在校生1039名中		留学生については、業界のニーズや受入体制を十分に配慮した体制の整備が必要ではないだろうか？
	5-19-2.3 学生の健康管理や、学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか。	3	学園が運営する「慶生会クリニック」「滋慶トータルサポートセンター」が学生の身体と心の健康管理をしている。毎年実施する健康診断で再検査になった際には慶生会クリニックにて再検査も実施している。 また、学園本部では学生寮の運営もしており、寮生については寮長と担任が情報交換、情報共有をしている。	【健康診断受診率】2018年度：100% 【医療法人社団 慶生会クリニック】 東京・大阪・福岡で学園グループが運営するクリニックで、一般診療以外に在校生の内科・歯科の診療を担当している。 【ジケイ・スペース株式会社】 校舎のメンテナンスおよび滋慶学園グループ校専用の学生寮を運営している。	2	協調性や対人関係が苦手な新人が増えているのが現状である。その対策ではないが、ゼミクラブ活動やサークル、津堂などの団体行動を積極的に取り組める体制の整備は、必要ではないだろうか。 入学数が減れば、経営環境が悪化し、今後の少子化も勘案すると、留学生を増やさなければならないとの考えに行き着くことは理解できる。 一方、出口側の環境(就労支援体制、受入先など)を整備しないまま、留学生が増え続けることになると、数字として、就職率の低下をまねき、結果、学校自体の強みが薄れてしまい、入学者数の減少に拍車がかかるという悪いサイクルに陥る可能性がある。受け皿の開拓は、急務。同時に受け皿側で要望のある学科に特化し、入学を誘導すれば、仕組みの構築は省力・低資金で済むのでは？
	5-19-4 課外活動に対する支援体制は整備されているか	1	クラブ活動やサークル活動は現在は実績がない。近年では学生からサークル活動を行いたいという希望も減少している。	※特記事項は特に無し。		年に、1、2回の課外活動があると楽しいのでは？と子どもたちからは意見が出ている。仲間意識が高まる機会にしたいと思います。
	5-20-1 保護者と適切に連携しているか。	3	入学直後保護者会を行い、学校生活に関すること、学習や資格取得、就職に至るまでのフロー(流れ)を理解する場を設けている。全体説明のほか個別相談も行い、関係性を築いている。	近年では、入学式、卒業式への保護者の出席率が高まっており、専門学校生とはいえ、保護者の学校情報の開示ニーズは高まっている。		
	5-21-1 卒業生への支援体制はあるか	3	卒業時に卒業教育プログラムの内容とスケジュールを明示し積極的な参加を促し、卒業後も学習や研究ができる場の提供をしている。また、資格不合格者には、卒業後も合格まで補習等を無償でサポートしている。	2019年11月17日に東京医薬専門学校40周年記念同窓会を実施予定。全卒業生に参加への呼びかけを実施し、卒業生とのネットワーク強化を試みる。		
	5-21-3 社会人経験者のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3	学則にて入学前の履修の単位認定について定めている。修業年限を配慮した大卒等を入学要件とした学科を設置している。本校は学生の約4割が社会人経験者であり、既卒者向けの体制は確立されている。	2018年4月入学生の実態 高校新卒287名(57.1%) 既卒205名(40.8%) 留学生11名(2.2%) ※既卒の内訳(大学生23名4.6% 短大生3名0.6% 専門学校生18名3.6% 社会人161名32.0%)		
6 教育 環 境	6-22-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2	国家資格系の養成施設として認可を受けており、施設・設備の設置状況に問題は無い。実習室に設置されている機器は、現場で多く使用されているものを取り入れている。	医療機器などの整備は一定レベルに達しているが、今後ICT教育を推進する上で普通教室の音響・映像環境、また机椅子などの整備を5カ年計画で立てている。 2019年度にFreeWi-Fiを導入し、ICT教育の強化を推進する。		スマホ、タブレットは使いこなせるが、PCが使えない若者が増えている。そのあたりも教育の必要性を感じている。
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	学外実習は、法定実習はもとより他の実習についても教育課程上に明確に位置づけられている。実習要綱やマニュアル、評価基準を作成し、受け入れ先医療機関や企業等と綿密な打合せの上、実施している。 海外研修は、国際教育という理念に基づく主要な教育実践の場と言える。渡航先に関し、各学科の目指す業界で先進国を選定している。	【海外研修 渡航先】 歯科衛生士科：アメリカ ハワイ 化粧品総合学科・くすり総合学科：アメリカ サンフランシスコ 言語聴覚士科・視能訓練士科・救急救命士科：デンマーク	3	ICT教育の進展を楽しみにしています。 非常食などの備蓄は問題ないか？

2018年度自己点検自己評価(2018年4月1日～2019年3月31日)による

記入者氏名【 居 関 暁 昌 】

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
6	6-24-1.2 防災に対する体制と学内における安全管理体制が整備されているか。	3	防災マニュアルを整備し、毎年防災訓練を行っている。また、管理会社も訓練に参加し、訓練内容の評価をして継続的な改善に役立っている。 防災・防火に関する点検は法令に基づき実施をしている。 緊急地震速報システムの設置、学生・教職員に対する安否確認システムを導入している。	学園のスケールメリットを生かし、関東で震災が起きた場合には関西に災害対策本部を設置する等、学校単位ではなく学園全体での防災体制が確立されている。 大型地震が発生した場合、本校は津波に対しても警戒せねばならず、各教室に津波が起こった際、どの教室に行くのかを明確に指示掲示している。		
7	7-25-1 高等学校に対し教育活動等の情報提供を行なっているか。	3	在校生・卒業生の状況は高校訪問にて随時情報提供を行っている。また、高等学校で実施している進学説明会にも積極的に参加している。 近年ではHP上で学校生活を公開したり、2017年度以降は実際の授業の様子を動画として閲覧できるようにしている。	東京医薬専門学校 ホームページ https://www.tcm.ac.jp/	3	高等学校の連携また範囲の拡大が引き続き重要だと思われる。 学生に話を聞くと「先生からの勧め」「オープンキャンパス」が決めてのキーワードとして良く聞かれる。
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的にこなしているか。	3	本校は東京都専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容を遵守している。個人情報管理についてはWEB上で管理しており、厳重に管理している。 オープンキャンパスは毎週定期的実施しており、時期ごとに志願者の趣向にあわせて内容で実施している。	志願者からの問い合わせに混乱なく迅速に対応するために専用の連絡先を設置している。 通常の体験授業以外にも志願者の趣向にあわせてオープンキャンパスを実施している。 (社会人対象・平日個別相談・夜間授業見学・学費相談説明会など)		
	7-26-1 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行い、選考に関する実績の把握ができていますか。	3	入学選考に関しては、基準を募集要項に明示している。合否の判定に関しては学校長・事務局長・教務部長・広報センター長・学科長により構成される「選考会議」にて合否を確定する。面接・書類内容・選考試験が実施されている場合、その結果をふまえて総合的に判断している。	【31年度入学生の入試ごとの出願状況】 AO入試：59.5% 高校推薦入試：4.0% 社会人入試：8.7% 一般入試：27.8%		
	7-27-1.2 学納金は適正かつ妥当なものとなっており、入学辞退者に対し適正な取扱いを行なっているか。	3	学納金は適正かつ妥当なものであると考えている。 入学辞退者に対して、3月31日までの申告者には入学金以外は全て返金している。	募集要項に教材・テキストを含め必要な学納金を入学初年度と在籍年数全体の金額として提示している。		
8	8-28-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	5か年を見通した事業計画と共に収支予算計画も作成しており、財務基盤の安定に努めている。	収支予算計画は、新学科設立、それに伴う職員の採用予定など全て連動して作成されている。	3	
	8-29-1.2 教育目標との整合性を図り単年度予算、中期計画を策定し適正に執行管理を行なっているか。	3	教育目標と整合性を図り、5か年の収支予算を作成している。作成した収支予算は学園本部とも協議をし見直しを行い、必要に応じて年度途中で理事会の承認を得た上で修正をしている。	単年度予算については、より詳細に部署別に落とし込んで作成をしている。執行状況は毎月行う運営会議で確認し、教育目標と照らし合わせ、予算超過が見込まれる場合にはその場で対策を講じている。		
	8-30-1 財務について会計監査が適正に行われているか	3	公認会計士による監査と監事による監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会および評議員会においてその報告をしている。	私立学校法上、義務付けられている「監事における監査」を受けているが、それに加えて、「公認会計士による監査」も受けている。これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。		
	8-31-1 財務情報公開の体制整備はできているか	3	私立学校法に基づく財務情報公開体制が整備されている。外部関係では寄付行為の変更認可及び行政への届出、そして内部関係では財務情報公開規程および情報公開マニュアルを整備し、財務情報公開をしている。	「財務情報公開規程」「情報公開マニュアル」によって、情報公開に対処している。HPに財務情報公開済み。		
9	9-32-2 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	法令遵守を学園の方針に掲げており、教職員全員でその方針を理解し実行に努めている。法人理事会の基に、コンプライアンス委員会を設け、学校運営が適正であるかどうか判断をしている。	半数以上が国家資格系学科であり、教職員の法令遵守の意識は高い。学校責任者および申請担当者に向けて学園のコンプライアンス委員会から情報発信を行い、必要に応じて研修実施や業務支援をしている。		

2018年度自己点検自己評価(2018年4月1日～2019年3月31日)による

記入者氏名【 居 関 暁 昌 】

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
9 法令等の遵守	9-33-1 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3	就業規則に個人情報保護を明記するとともに、教職員に対し研修を実施している。学園の中に「個人情報保護委員会統括事務局」を置き、個人情報保護管理体制の継続的改善に取り組んでいる。	外部機構の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、毎年ライセンスを更新している。 また、個人情報保護に関しては全職員が認定CPAアカデミック資格を取得し毎年更新研修を受講している。	3	
	9-34-1.2 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努め、その結果を公表しているか。	3	自己点検は平成15年度より行っており、平成17年には、自己点検・自己評価についての方針を常務会にて打ち出し、その方針のもと平成18年12月に委員会を立ち上げた。毎年評価を行い、H26年度は第2回目の第三者評価を受けた。	自己点検・自己評価を実施する中で見えてきた改善項目は学校責任者を中心に関係部署リーダーにて対策を検討している。評価結果は学校関係者保護委員会にて更に評価を得た後に、HP上に公開をしている。		
	9-34-3.4 学校関係者評価の実施体制を整備し、評価結果を公表しているか。	3	学校関係者評価委員会を実施し、自己点検・自己評価の報告をし、更に評価を行っている。評価結果についてはHPにて情報公開を行っている。	※特記事項は特に無し。		
	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか。	3	職業実践専門課程の認定を受け、HPで教育内容の情報公開を行っている。教育行事の取り組みは学校・学科ブログ等でも情報の公開を積極的に行っている。	※特記事項は特に無し。		
10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3	本校では学校の存在価値として4つの信頼を掲げている。その中に地域からの信頼を掲げ、社会貢献、地域貢献に積極的に取り組み、地域の方々からの信頼を得られる事を行動の指針としている。	【具体的な取り組み例】 1) 言語聴覚士科 就学前の言葉の発達に問題を抱える幼児を対象として、言葉の発達の支援を実践している。 2) 視能訓練士科 浦安の小学校の眼科健診補助を毎年行っている。 3) 救急救命士科 救命救急講習やAED講習等行っている。また、在校生が仲町消防団に入団し、地域貢献活動を行っている。	3	ボランティアなどへの積極的参加から、自信も得られると思われる。引き続き、活動を継続してもらいたい。  町会での防災訓練への協力をお願いしたい。
	10-36-2 グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか	3	本校は建学の理念の一つとして「国際教育」を掲げている。海外研修はこの理念に基づく教育実践の場になっている。各学科の特長特色に合わせて海外研修先を選定し、1週間程度のプログラムで実施している。  しかし、海外研修以外では国際交流などは実施できていない状況であり、今後の課題となっている。	※特記事項は特に無し。		
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し活動支援を行っているか。	3	ボランティア活動は積極的に推奨しているが、実態を把握しきれてはいない。今後、学生のボランティア活動結果を学内で共有する仕組みが必要だと感じる。	【ボランティア実績】 ・失語症友の会(言語聴覚士科) ・葛西地区お祭り防災ブース(救急救命士科) ・フッ素塗布事業運営補助(歯科衛生士科) など		